

知事との県民対話集会（長野市）概要

- ・開催日時 令和5年10月23日（月） 午後4時30分から午後6時まで
- ・会場 長野市芸術館 展示サロン
- ・参加者 県民36名、荻原長野市長、阿部知事、尾島長野地域振興局長
- ・テーマ 魅力を活かした観光振興とまちづくり

【参加者】

- ・10年ほど前から、善光寺周辺の空き家の仲介やリノベーションをし、移住したい方や創業したい方の場所づくりに取り組んできた。
- ・毎月1回空き家見学会を開催し、車で入れないような路地に行ったり、門前町の様子などの話を地元の方々にお聞きしながらまち歩きをしている。
- ・長野でお店を持ちたい方やコミュニティを活かしたプロジェクトにチャレンジしたい方などがたくさんいるが、地域の方々に紹介するきっかけがないのが悩みの一つである。また、代々商売をされてきた方やかつての賑わいを知っている方もたくさんおり、空き家が放置されていたり、一部取り壊されたりしていることが、もったいないと思っていた。そんな中、昨年6月から元NTTの建物を活用して移住者と創業者を支援する事業などに取り組んでいる。
- ・横浜市は大きな構想の中でまちづくりに取り組んでいる。長野市を一つの地域モデルにし、例えば、スペインなどで使われている「Decidim（デシディム）」を取り入れ、参加型まちづくりをオンラインで行う取組などができれば面白いと思う。

【知事】

- ・横浜市はまちづくりに力を入れてきており、参考にすべきところが多いと思う。
- ・横浜市のような政令指定都市は県と市の両方の権限を持っており取り組みやすいが、これを他の市町村が行おうとすると、県と市町村の権限の調整が必要となる。長野県は比較的小さな自治体が多く、まちのデザインの観点での取組が大都市と比べると弱いと感じていた。それを補完しなければいけないと考え、県レベルでUDC信州をつくった。県もサポートし、地域のまちづくりが進むように応援していきたいと思っている。
- ・行政だけでまちづくりに取り組んでも無味乾燥なものになってしまうと思う。まちづくりは企業や関心がある方々と一緒に取り組まないとうまくいかないと考えている。

【参加者】

- ・台風19号の災害支援で長野市を訪れ、自然が近く、農家の方が身近にいる環境に魅力を感じ、移住した。善光寺近くでクラフトビール醸造所とカフェを経営している。
- ・長野市の魅力を多くの方々に知ってほしいと思い、長野の農産物を使用したり、大学生や他の飲食店とコラボして商品をつくっている。全国に向けてオンラインなどでも販売し、長野の魅力を発信している。
- ・起業者に対して、長野市や商工会等も含め周囲のサポートが手厚いと感じている。いろいろな方とのつながりが実現しやすい環境も魅力的である。
- ・善光寺周辺が観光地のわりに夜がさみしいと感じる。飲食店や商店がもう少し遅い時間まで開いていてもよいのではないかと。
- ・首都圏からの交通アクセスがよい反面、日帰りになってしまっている。長野市に宿泊し、長野市を拠点に観光地に行く交通網などがもっと発達するとういのかと感じている。

【知事】

- ・移住者の視点でまちづくりを発信し、参画いただければありがたいと思う。
- ・夜のまちが静まりかえっているのは問題であると思う。インバウンドの人たちに楽しんでもらうまちにするという観点からも、夜に行く飲食店などがなくとも来訪者も少なくなり、滞在もしてもらえないと思う。
- ・公共交通については、77市町村の共通の課題で、まちづくりと表裏一体であると思う。長野県は、高速交通網から先の地域内での交通が脆弱であり、県としても今年の4月に交通政策局をつくり、公共交通や人の移動の確保をどうするかについて検討している。交通の一番の課題は担い手不足であり、若い人たちに参入してもらえ環境を事業者の皆さんと考えていきたいと思っている。

【参加者】

- ・長野県立大学グローバルマネジメント学部4年に在籍しており、若者の居場所づくりプロジェクトや空き家再生プロジェクトに取り組んでいる。
- ・若者の居場所づくりプロジェクトでは、地域まるごとキャンパス事業の一環で、もんぜんプラザ3階に「ふらっと」という施設を10月21日にオープンした。居場所がほしいという学生は多く、これからこの場での活動が学生たちの活躍につながればよいと考えている。一番の課題は、一緒に活動する仲間を見つけることであった。誰とつながればよいかなど大人がサポートしてくれる場所が分かれば心強いと思う。
- ・空き家再生プロジェクトは、閉店したボタン屋さんの建物を借りて、若者が多くの世代の方と交流できる場となるよう取り組んでいる。活用できる空き家を探す中で、所有者が判らなかつたり、リフォームが必要な物件があるなどし、こうしたことを相談できる場所が増えればよいと感じた。
- ・まちづくりに関わったことで長野の魅力が分かった。若者が関わられるようなシステムがもっと増えていくと、長野に残ってくれる若者やUIJターン等で帰ってきてくれる若者の増加につながると思う。

【知事】

- ・県の新たな総合計画では、女性・若者から選ばれる県づくりを掲げている。女性や若者に選ばれる、住みたいと思う県をつくることで、人口減少・少子化対策に資するようになっていきたいと考えている。学生の方々とも意見交換をしたいと思う。ネットワークづくりや大人がサポートする仕組みについて、県立大学と県の連携を強める必要があると思っている。
- ・高校生や大学生が地域に関わる仕組みを教育委員会と考えないといけないと思っている。地域への関心は強いが、関わることを経験する場が少ないことが課題であり、そうした場が増えるようにしていきたい。

【参加者】

- ・中心市街地にマンションが増え、市街地の風景が変わった。旧ダイエービルは4面から周囲が見える。中心市街地の象徴的な建物であるので、外壁に蔦を這わせ一本の木のように見せたらどうか。建物内部を吹き抜けにして鳥が集まるような雰囲気をつくり、音楽を建物の中で楽しめる空間にしたらいと思う。
- ・建物を壊して新しくするというだけでなく、過去のもを活かすことも大切だと思う。

【知事】

- ・長野市のまちづくりを具体的にどうするかは私だけでは考えられないが、これまで培ってきた地域の特色を大事にしないと個性がなくなってしまう。地域の歴史や伝統は引き継がれていくべきという視点を皆で共有していくことが重要であると思う。

【参加者】

- ・戸隠の文化遺産を後世に引き継いでいくために平成25年にまちづくり協議会を設立し、平成30年に国の重要伝統的建造物群保存地区に指定された。
- ・近年は、季節によってはオーバーツーリズムの懸念がある。駐車場不足による渋滞の発生や食事をとる場所がないなどの問題が生じている。
- ・観光客に満足していただくことと併せ、地元の住民も幸せを感じられるようにしていくことが重要であると考えている。インフラ整備などは地元だけでは取り組めないこともあり、旅行者に優しい観光地、長野県を目指し、支援をいただければありがたいと考えている。

【参加者】

- ・大河ドラマ真田丸の放映時には100万人の観光客が松代に来訪した。最近では団体客から個人客に移行しており、インバウンドや若者層を新たなターゲットとした取組を始めている。
- ・インバウンドではエコール・ド・まつしろ倶楽部などが伝統文化の体験を提供したり、旅行会社と連携し、待ツアーとして古武道を体験していただいたりしている。また、e-スポーツの大会を文武学校で開催したが、アンマッチの部分が好評であった。
- ・沖縄県との間で平和教育を目的に修学旅行などが行われているが、国際情勢が緊迫する中、平和教育の重要性が改めて見直されていると思われることから、松代の地下壕に沖縄県の高校生にぜひ来ていただきたいと思う。

【知事】

- ・戸隠の文化遺産を守っていただき感謝したい。
- ・観光ではどこにお金を落としてもらうかが重要であると考えている。スイスのマッターホルンではトイレは有料、そこでしか買えないお土産も多いという状況がある。自然を守るにも歴史を守るにも人手と経費が掛かるため、観光関係者や地域の皆さんにも、どこにお金を落としてもらうか考えていただきたいと思う。
- ・松代は資源が多い。様々な取組をされていることを改めて認識した。沖縄との交流もしっかり発展させていきたい。コロナ前までは、どちらかという長野県から沖縄県へ訪れる人が多かったが、沖縄県からも長野県にたくさんの方が来ていただけるよう取り組みたいと思う。

【参加者】

・産業、観光、医療、教育などあらゆる分野において究極の担い手不足の状況である。これを解決しないと住みたいまちにはならないと思う。そのためには、原資を稼がないといけない。地域でのブランド創生、観光や農業だけでなく医療や教育を含めたオール長野市でのブランドづくりに向け、優先的な事業を検討いただきたい。

【参加者】

・銀座NAGANOが狭すぎると思う。週末は入場できないこともある。今日の参加者の発言を活かすためにも、首都圏から長野へ観光客を呼び込むためにも、もう少し広くしてほしい。

【知事】

・担い手不足は各分野共通の最重要課題であると認識している。女性や若者に来てもらえる県にしていかななくてはならないが、それと同時に働き方が変わらないといけないと考えている。（人口減少下においては、）一人多役の社会にしていく必要があると思っており、県も職員の地域社会貢献活動応援制度をつくったところである。こうしたことを企業の方々と一緒に進めていきたいと考えている。

・県としてもブランド戦略のあり方を再検討中である。県外の方で長野県を教育県と言ってくれる人もいるが、県内の方はあまり意識していない。私としては新しい教育県としてブランド力を持つようにしていければと考えている。

・銀座NAGANOについても見直し中である。県の予算も限られており、また、地元の商店街とよいコミュニケーションがとれているので、今の場所を活かしながら、スペースの有効活用を図っていくことを考えている。